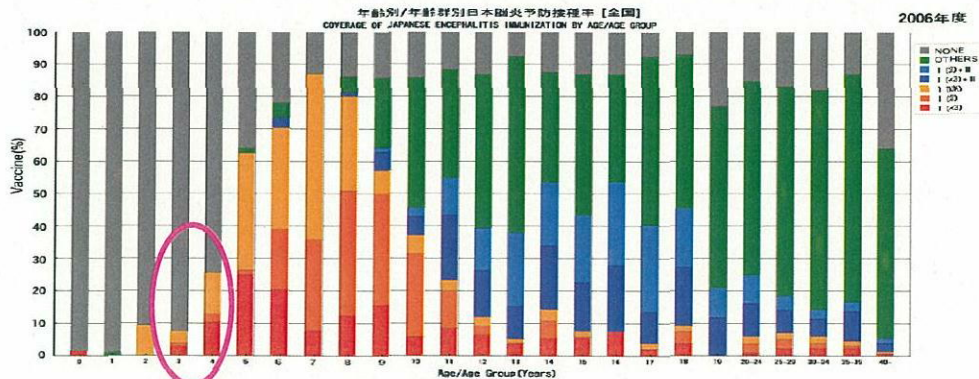


急性散在性脳脊髄炎(ADEM)

- わが国における15歳以下のADEMおよびその周辺疾患(多発性硬化症を除く)の発症頻度は年間約60例程度、15歳以下の小児人口10万人あたり年間0.32であると推計されています。
- 平成17年度厚生労働科学研究『小児の急性散在性脳脊髄炎の疫学に関する研究(宮崎、多屋、岡部ら)』によるADEM発症の平均年齢は6歳11か月でした。
- また、宮崎らによる94~95年,99~01年,01~02年におけるAND (acute neurological diseases: 小児急性神経系疾患)調査では、国内約10地域より59例のADEM(ほとんどは原因不明)の報告があり、発症のピークは6歳前後で、全治19%、軽快66%で死亡例はなかったと報告されています。

年齢別/年齢群別日本脳炎予防接種率, 2006年 (2007年4月現在暫定値)



2005年5月30日の、厚生労働省による日本脳炎ワクチン積極的勧奨の差し控え以降、3~4歳での日本脳炎ワクチンの接種率が激減しました(接種例不明は除く)



3-4歳の抗体保有率が低下